

新冠にまつわるお話しを集めた 新冠百話

第六十三話

「競馬場と馬市の話(語り)」(要約文)

戦前の頃の競馬というのは、道管か国管しかない。馬券は当時からありました。今の新ひだか町静内の木場町、あの辺が競馬場の物見台で一段高くなっていたのです。走る馬の種類もそれぞれ違っていて、速く歩く速歩馬、駆け馬、人間が乗った車を引く張る繋駕(けいが)という種目がありました。駆け馬は、サラブレッドやアラブ種、速歩馬はノルマン系やトロツター系の馬が参加していました。当時、競馬の騎手というのは、今のように資格を持った人ではなくて誰でも良かったし、自分の馬を自分で乗って出場しても良かったのです。

競馬は十月上旬に行われていた。一日に十レースくらいで、午前十時頃から行われていました。馬券は単勝のみで、今日のように連勝複式はありませんでした。着順は一〜三着までしか決めなかった。配当については計算機がない時代だから、そろばんで計算するので時間がかかりましたよ。競馬場のすぐ向かいには、馬市場がありました。馬市は八月のお盆頃に開催していたと記憶しています。これは、日高だけではなくて、全国から関係者が集まってくるのです。御料牧場の馬というのは生産専門だから、その馬がたくさん集まっていた。昔、豆腐屋が吹いていたようなラッパを鳴



戦前の馬市の様子

らして馬を誘導する。そして馬市場の御料牧場専用の牧柵の中へと追い込むのです。御料牧場の馬は、年間通して自然放牧しているから、野生の馬と変わらない。一頭一頭引つ張り出すのが大変だった。暴れて動かすのも一苦労です。だから、御料牧場の馬だけはもう一日別の日を設けて競り落とすわけ。戦前は軍隊を中心にした馬の生産が主だった。特に、将校が乗る馬は高く売れたと思う。中間種系統の馬は乗馬用になる馬もたまにいましたが、主に大砲や荷物を引つ張らせる馬として使われました。御料牧場生産の馬は繁殖牝馬として残すものは残し、牡馬はほとんど売ってしまうような感じでした。

戦前の頃、新冠の中で馬專業だけの牧場農家はありませんでした。畑で使う農耕馬はよく飼っていました。農家の子どもは、裸馬に乗って遊んだりして自由自在でした。みんな馬から生まれてきたようなものでした。

冬型交通事故の防止に向けて

- 早朝・夜間は路面凍結のおそれがあるため早目のブレーキを心掛けましょう
 - 年末年始・帰省先等にける飲酒運転の根絶
 - スピードを抑えた安全運転
- 静内警察署

戸籍の窓

10月21日～12月5日までの届出分 (敬称略)

●お誕生おめでとうございます
星川 ^{おね}音^ね寧 (裕太 ^{ママ}綾奈) 西泊津
佐藤 ^{けい}慶 (拓馬 真由子) 中央町

●おくやみ申し上げます
山本 シケ子 86歳 中央町
上居 スエ 92歳 中央町
東出 ノブ 81歳 北星町
小田島 原 98歳 高江
中山 ヨシ子 87歳 節婦町
草野 幾久 75歳 古岸
関村 トク 95歳 新栄

●お問い合わせ先
町民生活課町民生活グループ住民係
☎ 0146・47・2112

火災・救急出動状況 () かつこ内は前年同期			
区分	火災件数	救急件数	
11月	0件 (1件)	24件 (30件)	
5年1～11月	4件 (7件)	310件 (317件)	
交通事故発生状況 () かつこ内は前年同期			
区分	発生件数	死者	傷者
11月	0件 (0件)	0人 (0人)	0人 (0人)
5年1～11月	3件 (7件)	0人 (0人)	3人 (12人)

人のうごき

人口 5,164人 (前月比± 0人)
男 2,575人 (前月比+ 1人)
女 2,589人 (前月比- 1人)
世帯 2,822世帯 (前月比+ 3世帯)

(令和5年11月末現在)

町公式ホームページ 町公式フェイスブック